

道連ニュース

2026年11月号 No.239

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目1-3

こくみん共済coop北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

URL: <http://www.doren.coop>

2026年度

第3回 理事会

開催致しました

10月22日(木)ポールスター札幌にて倉島理事(あさひかわ福祉生協)を議長に選出し、開催致しました。冒頭、中島会長の開会挨拶ののち、以下の事項について、提案があり、承認されました。

【議決事項】

1. 北海道労働金庫 当座勘定取引解約の件

【審議事項】

1. 70周年記念事業の取組について
2. 「北海道における灯油価格の異常高騰ならびに供給制限の解消に関する緊急要請」に関わる一連の経過と成果、ならびに全道署名運動の展開について
3. LPガスの取組について

審議事項では、灯油問題について、10月に入り北海道限定の仕入価格の急騰と出荷制限が発生したことを受け、道生協連はコープさっぽろ、エネコープと連携し、10月9日の緊急記者会見を皮切りに、主に「流通の目詰まり」に関し経産局および道庁へ緊急要請を行

いました。マスコミ各社で大きく報道された結果、10月16日には赤澤経産大臣より『出荷制限是正』『灯油直販スキームの新設』『輸入支援の重点化』という異例の緊急対策が発表されました。現在、10月31日を1次締切として全道署名運動を進めていること、実効性を求めて11月5日(木)に第2次要請を行う予定です。

『LPガス問題』です。10月15日経産省のワーキンググループを受け、道生協連としてパブリックコメントに対する「意見案」を作成し、①賃貸集合住宅オーナーへの利益供与の『一律禁止(ゼロ)』②三部料金制の徹底③事前情報の開示義務化を盛り込むことを確認いただきました。

【報告事項】

1. 一般活動報告の件
2. 2026年度第2回理事会議事録の件
3. 2026年度上期決算速報の件
4. こども食堂北海道ネットワークの取組第1回監事会報告
5. ほっかいどう若者応援★学生プロジェクト活動報告について
6. 協同組合ネット北海道の取り組みについて
7. 北海道からの通知及び友好団体・協賛・後援の件
8. 日本生協連北海道・東北地連報告
9. 会員報告

以上

会員生協報告では、

① 生活クラブ生協北海道

■11月8日(日)開催の「わくわくまつり」の取り組みについて報告がありました。

② 北海道学校生活協同組合

■児童図書(良書)推薦運動を今年度から収納代行(キャッシュレス)方式へ変更し、更に収益の一部を能登半島地震被災地の学校に支援金として送金する旨報告がありました。

③ 北海道労共済(こくみん共済coop 北海道推進本部)

■社会貢献活動に関し9月9日から11日「小学校への横断旗寄贈」8月30日「ほっかいどう若者応援★学生プロジェクト★」と共催した防災・減災イベント」9月5・6日北海道新聞主催「みんなで考える防災展」へのブース出展」10月5日「こどもの居場所づくり応援基金」へお米(260k相当)の寄贈、10月

13日(公財)ふきのとう文庫への寄付贈呈の報告がありました。

④ . コープさっぽろ

■10月31日1次締切「北海道における灯油価格の異常高騰ならびに供給制限の解消に関する緊急署名活動の店頭活動について」■11月21日(土)食べたいせつフェスティバルの開催について■11月27日(金)あす森フォーラム2026 開催について報告がありました。

⑤ 酪農学園生協

■大学との連携として 同窓会校友会支援事業として、11月に「100円朝食」を実施し学生応援する企画の報告がありました。

⑥ 大学生協事業連合北海道地区

■道内15番目となる公立千歳科学技術大学生協の設立総会終了の報告がありました。

「環境と食料生産を考える！」

～「土を育てる農業」生徒たちの挑戦から学ぶ
2つの栽培報告会を開催～

北海道生協連では、環境に配慮した持続可能な食料生産について理解を深めるため、北海道真狩高校との連携企画を開催しました。10月に実施された2つの栽培報告会の報告を致します。

企画①
10月7日(水)

真狩高校圃場 栽培報告会

・参加者：組合員等30名（真狩高校 教諭2名・生徒18名、事務局スタッフ）

【実施内容】行き行きのバス車内で「土を育てる農業」についての講義・振り返りを行い、現地へ向かいました。真狩高校の圃場（ほじょう）では、クローバー等を活用した「リジェネ農法（再生型農業）」区でキャベツ・白菜・小豆、「炭素循環農法」区でサツマイモの栽培状況報告を聞き、実際に試食や収穫体験を実施しました。また、



同校製菓コースの生徒による紹介動画の視聴や手作り焼菓子の試食、これまでの栽培経緯・同校の受賞実績を収めた動画の鑑賞、懇談・質疑応答など、盛りだくさんの内容で交流を深めました。



参加者の声（抜粋）

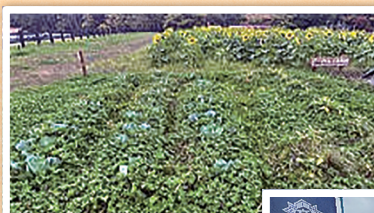
- 「クローバーの間に植えた小豆や、草の中で大きく育つ白菜・キャベツなど、初めて見る光景に驚きました。農家さんにも地球環境にも優しい栽培スタイルが広がってほしいです。」
- 「有機農法でこれほど立派な野菜が育つことに感動しました。生徒さんの礼儀正しく親切な説明や、手作りスイーツの美味しさにも元気をもらいました。」

企画②
10月14日(水)

サステナブル菜園 栽培報告会

・参加者：組合員等17名（真狩高校 教諭2名・生徒16名、事務局スタッフ）

【実施内容】調理体験棟にて、菜園の「リジェネ区」「炭素循環区」「菌ちゃん区」「ノーディグ（不耕起）区」といった各区画の特徴と、スタートからの生育経過動画を視聴。その後、菜園へ移動し、高校生の指導のもとローテーションで各区画の成果報告と収穫体験を行いました。体験後は、前週に収穫したサツマイモや菜園のキャベツを試食しながら懇談し、同校の「栽培マニュアル」の共有や、次年度に向けた提案が行われました。



参加者の声（抜粋）

- 「リジェネ区のキャベツは、通常栽培のものと違ってえぐみがなく柔らかい！小ぶりでもこんなにきれいに育つことに驚きました。」
- 「家庭菜園をしており、耕起や草取りの負担を減らすヒントになりました。ぜひクローバーを活用してみたいです。」
- 「来年もこのような企画があれば、有料でもぜひ参加したいです。」

10月1日

灯油の安定供給と適正価格を求める 北海道経済産業局・北海道へ要請

対応者 北海道経済産業局資源・燃料課 課長 五十嵐 岳紀 様
同 総括係長 有田 宏基 様
北海道 保健福祉部地域福祉課 課長補佐 小藪 卓 様

訪問者 北海道生活協同組合連合会 専務理事 平 照治
生活協同組合コープさっぽろ 理事組合員活動委員会 委員長 犬島 奈美
生活協同組合コープさっぽろ 組合員活動部 活動推進グループ長 河井 とわ

北海道生協連およびコープさっぽろは、厳冬期を前に北海道および北海道経済産業局に対し、灯油価格の抑制と安定供給に関する要請行動を実施いたしました。

1. 緊急激変緩和措置の継続と支給水準の見直し
2. 灯油の安定供給体制の確保とサプライチェーンの厳格なモニタリング
3. 灯油配達網の「公益的インフラ」化と持続的供給体制への支援
4. 重点支援地方交付金の使途の柔軟化への働きかけ
5. 福祉灯油等の取組の推進と財源確保について



北海道保健福祉部へ要請



北海道経産局へ要請

10月9日

金

「北海道における灯油価格の異常高騰なら びに供給制限の解消に関する緊急要請」に 関わる緊急記者会見実施

- ・中島会長理事、平専務理事、犬島コープさっぽろ組合員理事、五十里エネコープ社長の4名で登壇し、「190円台は命の選択を迫る限界」「北海道限定の流通の目詰まり（不全）」について、国・道に対し対策を求めました。

当日取材は7社集まりました。

本年10月に入り、国による燃油価格激変緩和補助金が継続されているにもかかわらず、北海道内にお

いてのみ「灯油仕入価格の異例な急騰（1Lあたり＋約25円・税抜）」と「需要期に向けた供給・出荷制限」という過去最悪の市場不全が発生いたしました。

10月1日に配送価格の改定（札幌市で1L当たり159円）が行われた直後にもかかわらず、この仕入高騰を末端価格に転嫁せざるを得ない場合、店頭・配送価格は「1リットル当たり190円台」というガ

ソリン（約170円/L）を大幅に上回る、道民生活の破綻を招く事態に直面いたしました。

この事態に対し、当連合会はコープさっぽろと緊密に連携し、消費者・道民組織の代表として「道民の命を守る」観点から、国（経済産業省）・北海道庁・



北海道経産局へ緊急要請

石油業界に対する緊急要請、広報活動（記者会見）、および全道規模での緊急署名運動を即座に展開する旨発表いたしました。

要求項目は以下のとおりです。

1. 石油元売り各社に対し、北海道向け灯油の出荷制限を即時解除し、優先供給を指導すること。（国）
2. 他県からの灯油の広域融通・横流入規制を即時に撤廃すること。（国）
3. 寒冷地道民の負担を和らげる「緊急価格安定策」の実施と「福祉灯油」等の財政支援を行うこと。（国・道）
4. 北海道知事は、道民の命を守るため、国および石油業界へ速やかな緊急要請を行うこと。（道）

併せて10月13日(水)北海道経済産業局要請10月16日(金)北海道経済部要請を実施致しました。

政策的成果（10月16日 赤澤経済産業大臣発表の対策内容）として当連合会およびコープさっぽろの要請ならびに世論・報道の高まりを受け、10月16日(金)閣議後会見にて、赤澤亮正 経済産業大臣より『灯油の流通円滑化対策の強化施策（灯油直販スキーム等）について』が正式に発表されました。

当連合会が指摘した「前年実績以下の出荷制限」や「輸入玉途絶・流通の目詰まり」に対する直接的かつ具体的な解決策が示された、大きな成果であります。

【経済産業省が発表した「3つの強化施策」】（※経産局提出資料より）

- ①. 前年同月比「同量」の販売および注文の要請（出荷制限の是正）

○石油元売事業者・輸入事業者に対し、卸売事業者向け販売は「系列・非系列にかかわらず、前年同月比同量を基本」とするよう要請するとともに、卸売事業者に対しても前年同月比同量を基本とした注文および販売を行うよう要請。

- ②. 「灯油直販スキーム」の新設(元売りからの直接販売)

○供給の偏りや流通の目詰まりが発生する場合には、灯油の卸売事業者や医療分野、農業分野などの需要家に対し、石油元売事業者から直接販売を実施する仕組みを新設。

- ③. 「灯油輸入への支援の重点化」（輸入灯油調整単価の支給）

○緊急的激変緩和措置の調整単価について、輸入灯油に対し、輸入価格と国内卸価格の差額を「輸入灯油調整単価」として支給し、灯油輸入への支援を重点化（灯油の需要）



第3回

「運営者+支援者+行政 交流会」が “共感”の笑顔で開催されました

ご協力に
感謝申し上げます！



10月8日木曜日13:30よりホテルポールスターにて道生協連が支え応援している「こども食堂北海道ネットワーク」主催の交流会が昨年度同様60名を超える参加で賑やかに！楽しく！互いの思いを交流し、子ども達が安心して健全に育まれる地域社会作りに向けての“決意”を共有しあいました。初めて参加された「支

援事業者」からは「運営団体毎の特徴や困り事がよく理解できました！」「自分たちが出来る支援を工夫する事で新しい繋がりが生まれるんですね！継続した繋がりを！等々嬉しいご意見を沢山頂戴しました。道生協連が支える「居場所づくり応援基金」も平専務より報告を頂き、広がり創りへの拍手が送られておりました。



運営者さんも「支援者」の熱い思いに改めて感謝と共に、その仕組みづくりへのネットワークの活動工夫等々、ご厚意に対応する「お礼状」等、真摯な活動の大切さを改めて共有する機会になっておりました！終了後アンケートには「直接触れ合う事で本音の話が聴

けて良かった!!～行政関係者」「継続は何より大切ですね！」等々、こども食堂への期待！繋がる機会への期待！が溢れておりました。コーヒーとドーナツでの交流会に貴組織からも是非ともご参加ください！